

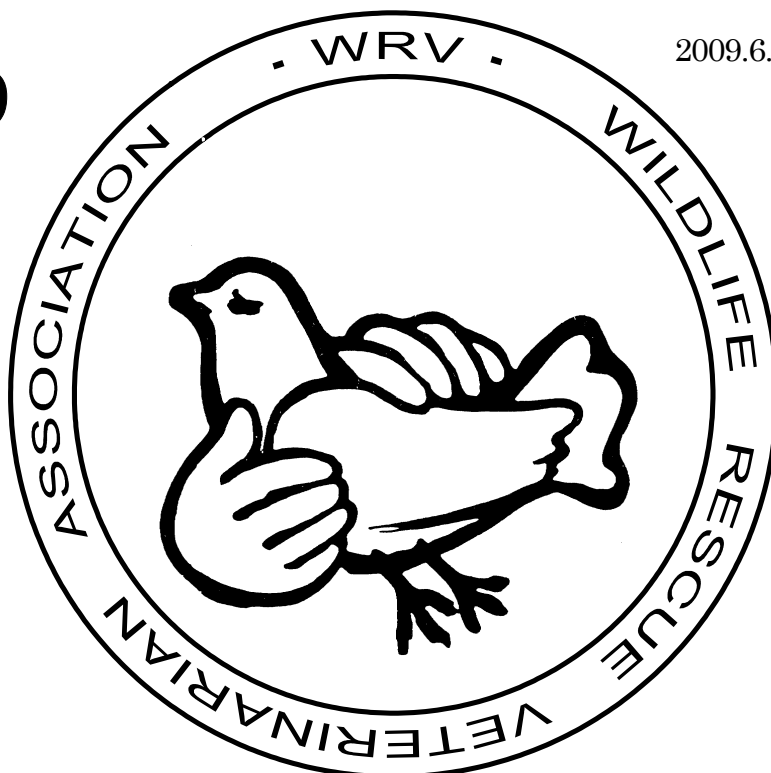
WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.69

2009.6.26 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.69 目次

副会長就任挨拶	大窪武彦、皆川康雄・・・2
東京バードフェスティバル 2009 出展報告	箕輪多津男・・・3-4
ヒナを拾わないで!!キャンペーン協賛報告	箕輪多津男・・・5
リハビリテーター養成専門学校について	皆川康雄・・・6-7
講習会のご案内	・・・8
WRV 講習会、シンポジウムのご案内	・・・9
油汚染専門家養成講座募集要項	・・・10
寄付のお礼とお願い	・・・11
カルテ提出のお礼とお願い	須田沖夫・・・11
事務局日誌	・・・12

副会長就任挨拶

就任あいさつ

WRV 副会長 大窪 武彦

副会長に就任しました大窪武彦と言います。私は、WRV に入会と同時、かれこれ 10 数年カルテ集計に携わってきました。

カルテの回収率アップをどうしようか、カルテそのものをもっと記入しやすくするにはどうしようか、送っていただいたカルテのデータベース化をどうするか、データベースを活用する際に検索しやすくするにはどうするかなど、情報収集のためにいろいろ試行錯誤を繰り返してきました。

今後は、当然カルテ収集することも継続しつつ、WRV 設立以来の莫大なデータベースを、どう活用していくかを検討しつつ、「WRV は保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。」という WRV の理念に沿って、莫大なカルテデータが最終的には、生物多様性の保全あるいは地球環境保護へと繋がればと考えております。

新妻会長をはじめ、皆川副会長の足手纏いにならないよう、全力で会務に取り組む所存でございます。会員皆様方のご指導、ご鞭撻をお願いしましてご挨拶と致します。

－これまでの WRV これからの WRV－

皆川康雄

このたび、副会長になりました皆川康雄です。2002 年に事務局員に採用されて以来、7 年間 WRV とともに歩んできました。今回、大窪先生とともに若手の理事が、副会長という大役を仰せつかったことは、まさに WRV が転換期を迎えたことを意味していると感じています。そこで、これまでの WRV の功績と私が目指すこれからの WRV の果たすべき役割を述べたいと思います。

WRV は、ご存じの通り 1991 年に設立されました。その設立に際して、「野生動物救護はだれが担うべきか。それは“獣医師”が担うべき」という命題を使命として掲げたのが、初代理事の先生方だと私は思っています。

当時、時代の先駆けとなったこの強い使命感により、社会は少しずつ動き、今や「救護は獣医師が担う」は当たり前となりました。日本獣医師会が野生動物委員会を設置し、「野生動物救護のあり方」(2005 年)を提言したことは、その象徴と言えるでしょう(私も WRV を代表して委員を担当しました)。まさに、WRV の最高の功績だと私は誇りに思っています。

しかしながら、それは一つの時代が終わったことを意味していると思うのです。NPO にとって時代の先読みが宿命であり、今の WRV に求められているのだと私は考えています。つまり、「救護は獣医師が担うべき」の次なる命題は・・・。

私は、それは「救護は獣医師だけが担うのか。いいえ、“野生動物リハビリテーター”も担うべき」を命題として掲げたいと考えます。つまり、主に救命を担う獣医師とともに、野生復帰を担う“野生動物リハビリテーター”が必要であると考えます。むしろ時代は、いかに野生復帰させるかに期待がかかっているときえ感じています。この二者が、これからの野生動物救護を担う人材であると確信しているのです。

皆様には、これからも WRV の活動にご理解とご協力をお願いしたいと思います。

「東京バードフェスティバル 2009」出展報告

WRV 事務局 箕輪 多津男

本年も5月23日（土）から24日（日）の日程で、恒例となりました「東京バードフェスティバル 2009」が、東京港野鳥公園で開催されました。本行事に WRV(東京都支部)は5年連続で参加し、これまでと同様、団体PR用ブースを出展いたしました。

今回は、1日目(23日)は比較的天候に恵まれこともあり、それなりの人出があったのですが、2日目(24日)は生憎朝から雨天となったため、会場を訪れる人の数も例年になくまばらで、残念ながら今一つ盛り上がりには欠ける結果となってしまった模様です。

一方、当日の出展と運営については、神奈川県野生動物リハビリテーターがのべ11名、WRVの皆川副会長が現在講師を務めておられる東京環境工科専門学校の学生が6名と、計17名ものボランティアの方々に直接お手伝いいただき、ブースそのものについては、大変賑やか感じでPR活動が展開できたものと思われまふ。

WRV(東京都支部)のブースでは、まずは昨年と同様、野鳥救護等に関わるパネルの展示とともに、立ち寄っていただいた一般の方々のうち、希望者を対象に「野鳥救護クイズ」を出題いたしました。ただし、問題の内容は一部を除き改変し、昨年解答してもらった方にも新たに興味を持っていただけるよう配慮いたしました。解答いただいた方には、その場で内容の解説を行い、その解説を載せたシートに数種のパンフレットと「ヒナを拾わないで!!」ポスター、そして「野鳥救護クイズ参加賞」を添え、一人一人に差上げました。これらのクイズに関わる資料一式は、二日間を通じて約130セット配布いたしました。昨年と比べると、やはりかなり少なかったことは否めません。

今年は、上記のクイズとともに、神奈川県野生動物リハビリテーターの方々が作成された「野鳥の親子当てクイズ」も実施いたしました。これは、箱の中に用意してあるスティックを各自一つずつ引いてもらい、その先端に付いている野鳥の写真を見て、それが何という種類の鳥なのかを当ててもらおうというものです。その際、大きなヒントとして、スズメやシジュウカラなどクイズの対象となっている7種の鳥の親鳥とヒナの写真を示したシートを同時に示し、その中から探してもらおうと自然に解答にたどり着くことができるよう、前もって工夫がされています。従って、まだ幼い児童であっても十分答えを出せるので、こちらのクイズは主に子供向けという形で実施されました。そして、解答いただいた子供たちには、もれなくすてきな「バードレンジャーカード」(野鳥カード)が手渡されました。

さらに、これも神奈川県野生動物リハビリテーターの方々による「ゴミに悩まされる野鳥たち」というタイトルの、紙芝居方式のクイズも実演されました。こちらについては、ブースの周辺では通行の妨げとなってしまうこともあり、当日ミニ・コンサート会場として設定された管理等横のスペースを一時的にお借りし、両日とも11時30分と13時の2回、それぞれ15名～25名程の参加者を得て実施されました。野生動物リハビリテーターの代表者は、既に他の会場でも実演済みということで、かなり手馴れた形で進行をされ、集まった方々の反応も上々であったようです。こちらではクイズ(実演)終了後、海ゴミ等に関わる解説用冊子と、先程のカードがそれぞれ参加者に配布されました。

以上、今回は3通りのクイズを実施しましたが、それぞれの内容や形式が異なることもあって、結果として、大変幅広い年齢層に対応したコミュニケーションと、野鳥救護

等に関わる内容の普及・伝達が可能になったように思われます。

今回の出展における実績を踏まえながら、来年、あるいは別の機会における活動の展開について、改めて検討を進めていければと考えております。いずれにしましても、今後もこうしたイベントを通じた広報活動の継続と発展を図っていければと意を新たにしているところです。

なお、今年で6年目を迎えた「東京バードフェスティバル」ですが、そのブースの出展状況を見てみますと、中心となっている光学機器メーカーや自然保護団体、各種NPO、そして学生の運営によるものなど、すべてのカテゴリーにおいて数が減ってきており、トータルで見ると、当初の約半数にまで落ち込んで来ているとのことです。また、今年はWRVから誰も顔を出すことができませんでした。1日目の晩に開かれる懇親会への参加者もかなり減ってきているとのことです。このようにイベントそのものが年々衰退方向にあることは明らかで、私どもも現場における寂しい状況を実感してきておりますので、来年度以降、再び当フェスティバルが輝きを取り戻せるよう、実行委員の方々を中心として、何らかの新たな方針を打ち出していただくことを願っている次第です。

最後になりましたが、今回の出展にあたり準備も含めてご協力いただいたボランティアをはじめとする関係各位、あるいは当日、ご多忙中にもかかわらず会場にお越しいただいた方々に、改めて感謝の意を表したいと存じます。誠にありがとうございました。

<当日の参加者（ブース運営等）>

野村、新妻、皆川、箕輪(以上WRV)、草谷まりさん、横山まきさん、東山弓子さん、彌重由美さん、高橋真理さん、岡崎敦子さん、佐々木麻乃さん、佐々木有樹子さん、北島佳子さん、岡みつるさん、森田修二さん(以上神奈川県野生動物リハビリーター)、古川温子さん、田上かほりさん、静野誠子さん、飯室健さん、野口大輔さん、東島宏一さん(以上東京環境工科専門学校・学生)



◆平成21年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」について◆

WRV事務局 箕輪 多津男

WRVでは本年度も引き続き、(財)日本野鳥の会および(財)日本鳥類保護連盟との協力体制のもと、「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」を共催させていただきました。

本年度のキャンペーンに、当協会あてにご協賛いただきました団体（または企業）は、以下のとおりです。ポスターにも既に、それぞれのご芳名を掲載させていただきましたが、不況の風が世の中に吹きすさぶ中、多大なるお力添えを賜りましたことに、改めて心より深く感謝の意を表する次第です。誠にありがとうございました。

＜ヒナを拾わないでキャンペーン／協賛団体リスト＞（40団体：五十音順）

社団法人 愛知県獣医師会	社団法人 秋田県獣医師会
イソップ薬品 株式会社	社団法人 岐阜県獣医師会
社団法人 京都府獣医師会	株式会社 共立商会
株式会社 キリカン洋行	株式会社 グッドウィル
株式会社 サンギョウ	社団法人 静岡県獣医師会
NPO 法人 自然環境アカデミー	大日本住友製薬 株式会社
高尾霊園犬猫墓地	社団法人 千葉県獣医師会
社団法人 東京都獣医師会	動植物観察研究会
社団法人 栃木県獣医師会	財団法人 鳥取県動物臨床医学研究所
社団法人 長崎県獣医師会	社団法人 名古屋市獣医師会
社団法人 新潟県獣医師会	社団法人 日本獣医師会
一般社団法人 日本小動物獣医師会	日本全薬工業 株式会社
社団法人 日本動物病院福祉協会	馬場綜合動物病院
社団法人 福岡県獣医師会	文永堂出版 株式会社
社団法人 北海道獣医師会	社団法人 三重県獣医師会
武蔵村山ペットメモリアルパーク	ムナテックス 株式会社
森久保薬品 株式会社	野生動物ボランティアセンター
野生動物リハビリテーター協会	社団法人 山口県獣医師会
学校法人 ヤマザキ学園	株式会社 吉元
株式会社 レオニス	社団法人 和歌山県獣医師会

会員の皆様には、前号のニュースレターとともにポスターを送らせていただきましたが、これまで以上に本キャンペーンの主旨をお汲み取りいただき、その普及のためにご協力いただければ幸いに存じます。

例年のごとく、ちょうど野鳥の繁殖期に当たっている今の時季に、それぞれの雛の健やかな成長を願いつつ、これからも野鳥の声が絶えることのないよう、身近な自然環境の保全を目標に、皆様と共に歩みを続けていければと考えております。

なおWRVでは、傷病鳥獣の救護活動につきましても、さらなる尽力をしてまいりる所存ですので、重ねて皆様のご協力をお願い申し上げます。

野生動物リハビリターの養成学校誕生

WRV 副会長 皆川康雄

本誌冒頭の副会長就任あいさつで述べたように、これからの野生動物救護の担い手は、獣医師とともに野生動物リハビリターが必要です。

そこで、全国に先駆けて、神奈川県で野生動物リハビリター資格認定制度を2004年に創設しました。現在100名を超える野生動物リハビリターが活躍するようになり、それなりに成果を上げています。しかしながら、この認定制度は資格を得られる要件として、(仕方がないことではありますが)“神奈川県在住”となっています。つまり、県外の方は受講することができないのです。神奈川県野生動物リハビリターの約半数が、10代、20代の若者たちであり、野生動物に関係する資格を持つ魅力を感じていることから、野生動物を守りたいと情熱を懸ける県外在住の若者たちには落胆させてしまっていました。

こうした状況の中、野生動物リハビリターという人材の育成に名乗りを上げる専門学校が現れました。東京都渋谷区にある東京環境工科専門学校です。この学校は、自然環境保全学科と野生生物調査学科の2学科からなる自然環境系の専門学校です。これまで、どちらかというと動物看護系の専門学校で、ペットの看護や動物飼育の学習の延長で、対象を野生動物に変えてリハビリター的な要素を学習する傾向にあったように思われます。

しかし、今や野生動物リハビリターの役割は、単に傷病野生動物を看護したり、リハビリしたりすることだけではなく、傷ついた野生動物からメッセージを受け取り、物言わぬ野生動物の代弁者として、人と野生動物とが共生していけるように関係改善を図ることが求められています。

つまり、失われた自然を取り戻すことを“自然再生”と言うように、失われた野生を取り戻すことを“野生復帰”あるいは“野生動物リハビリテーション”と言い、そうした野生を取り戻すリハビリテーションを実践する人材を野生動物リハビリターと呼ぶのです。まさに、野生動物リハビリターは、野生動物を守る担い手の新たなキーワードとして掲げられているのです。

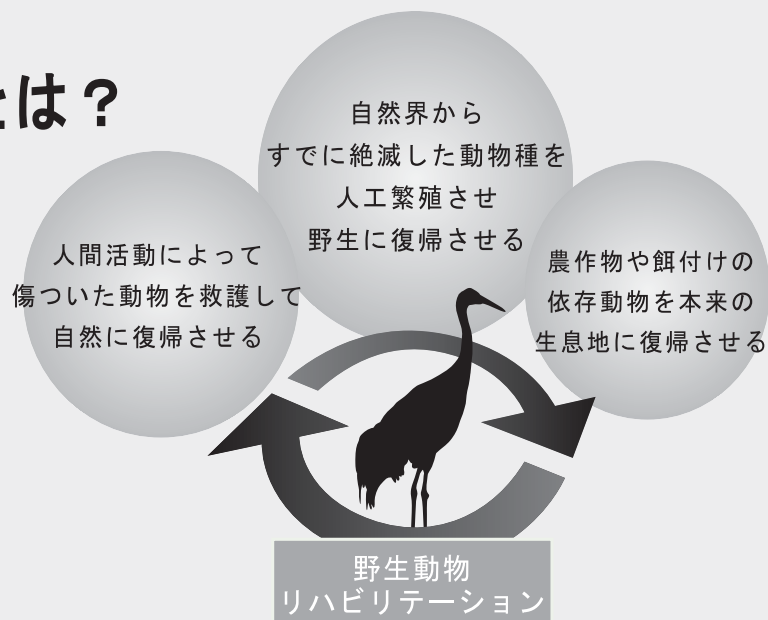
こうした理念を踏まえると、ある意味フィールドワーカーこそが、野生動物リハビリターに向いていると考えます。今後、野生動物リハビリター養成カリキュラムを履修できる学校を卒業した者には、きちんと資格を与え、全国各地で活躍できるように、神奈川県で創設した資格認定制度をさらに発展させていきたいと考えています。これにより、神奈川県外在住の若者にも野生動物リハビリターへの道が開けることを切に願います。

最後に、右のページに当学校のPRチラシを掲載します。人と野生動物との共生を実現したいと考えている若者へぜひ見せていただきたいと思います。そして、救護活動に実績のある動物病院では、こうした人材が一入ると重宝するのではないかと想像します。

野生動物リハビリターを 体験できる日本で唯一の学校です！

野生動物リハビリターとは？

野生動物に対して復帰訓練(リハビリ)するとともに、人間に対しても野生動物と共生できるように関係改善を導くことを「野生動物リハビリテーション」と言い、これらを実践する人を野生動物リハビリターと呼んでいます。



リハビリターで活躍する卒業生

財団法人 ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団
福島県鳥獣保護センター 勤務 鶴嶺高等学校 出身

坂本 七重さん

「現場で学ぶことの大切さを知る」

事故や病気などで傷ついたり孤児になった動物たちが、再び野生に帰るための手助けをする「野生生物リハビリター」をしています。手術や薬ではなく、飼育環境や食事の工夫による治療が主な役割です。自然相手だと、現場でしか学べないことばかりです。TCEでの実習を通じて、フィールドでの経験や知識はもちろん、体力や行動力を身につけられたことが、今の私の自信につながっています。



～ 講師からのメッセージ ～

実務を通じて見えてくる実力とやりがい。

「野生動物リハビリテーション」を授業科目に掲げて講義や実習、さらに救護施設においてインターンシップまで実施している学校は、日本の中では本校だけです。傷ついた野生動物からのメッセージを受け取り、物言わぬ野生動物の代弁者になるためには、野生動物の立場に立って自然環境や人間社会を見つめる“目”を養うしかありません。こうした特殊な技能をもつ野生動物リハビリターは、海外ではすでに公的な資格者として活躍していますが、わが国ではまだ一部で制度化されているに過ぎません。本校でのインターンシップを通じて、本校卒業生が海外の野生動物リハビリターに負けないくらいの実力を有し、各地で活躍してくれることを心から期待しています。



野生動物リハビリテーション担当
野生動物ボランティアセンター所長
皆川康雄先生

TCE 東京環境工科専門学校

〒150-0011 東京都渋谷区東 2-5-3

TEL : 03-3409-3288

<http://www.tce.ac.jp>

講習会のご案内

一般社団法人日本小動物獣医師会 2009 年年次学会（福岡）

開催期日：2009 年 7 月 19 日（日）・20 日（月・祝）

開催場所：福岡国際会議場 福岡県福岡市博多区石城町 2-1 TEL 092-262-4111

<http://www.jsava.com/2009gakkai/index.html>

*WRV 後援

第 30 回動物臨床医学年次大会

開催期日：2009 年 11 月 20 日（金）・21 日（土）・22 日（日）

開催場所：グランキューブ大阪（大阪国際会議場） 大阪市北区中之島 5-3-51

<http://www.dourinken.com/taikai.htm>

*WRV は後援団体で、野生動物分野で共催と一般口演等の参加を予定しております。

神戸アニマルケア国際会議

開催期日：2009 年 12 月 12 日（土）・13 日（日）

開催場所：神戸国際会議場メインホール 501&502 会議室神戸市中央区港島中町 6-9-1
併設展示会場 神戸国際展示場 3 号館 神戸市中央区港島中町 6-11-1

<http://www.knots.or.jp/index.htm>

*WRV は協力団体で、ワークショップ I X「野生動物の保護管理～生息地保護と有効活用」に須田理事が講師として参加いたします。また、簡単なブース展示を考えており、協力者を募集中です。WRV 事務局までご連絡下さい。

野生動物救護獣医師協会講習会

鳥の骨折治療講習会

場所：アミュー立川第1会議室
立川市錦町 3-3-20
日時：2009年9月27日（日）
10:00～12:00（受付：9:45～9:55）
受講対象：獣医師、獣医学生、VT、
リハビリテーター

講義演題：

「小鳥の骨折」

WRV 大阪支部 支部長 中津 賞

「中～大型鳥の骨折」

猛禽類医学研究所 代表 齋藤 慶輔

座長 日本獣医生命科学大学 教授

梶ヶ谷 博

＊日本獣医師会の獣医師生涯研修事業の
ポイント所得を申請予定

傷病野生動物救護の現状と

今後の課題 シンポジウム

Shinjo プロジェクト助成金事業

場所：アミュー立川第1会議室
立川市錦町 3-3-20
日時：2009年9月27日（日）
13:00～17:00（受付：12:30～12:55）
受講対象：獣医師、獣医学生、VT、
リハビリテーター、行政、鳥獣保護員

講義演題：

「救護の問題点」

WRV 理事 石橋 徹

「傷病野生動物救護の流れ」

NPO 自然環境アカデミー 野村 亮

「小動物臨床の中での救護活動」

WRV 大阪支部 支部長 中津 賞

「リハビリテーターの養成と活用」

WRV 副会長 皆川 康雄

「傷病野生動物の予防対策」

猛禽類医学研究所 代表 齋藤 慶輔

座長 WRV 理事 須田 沖夫

○WRV 正会員とボランティア会員の皆様には、後日案内を送付いたします。

○お問い合わせ先

東京都立川市富士見町 1-23-16 富士パークビル 302
TEL/042-529-1279 FAX /042-526-2556
E-mail:kyugo@wrvj.org
担当 梶山、吉見

【油汚染鳥救護等に関する専門獣医師等の養成】事業のご案内

WRV では本年度より新たに、日本財団からの助成を受けて、標記のような「油汚染鳥救護等に関する専門獣医師等の養成」事業を行うことになりました。

本事業は、油流出事故に関する各事項を学んだ後、油汚染鳥の一連の救護活動(保護、診療、リハビリテーション、放鳥など)に積極的に従事し、かつそれに関わるボランティアの指導や、当事者となる行政サイドへの適切なアドバイスを行うことができるような、広範囲の高度な知識と技術を持った専門獣医師等を、数年かけて新たに養成していくことを目的として実施するものです。

本年度の概要は以下の通りですので、意欲と興味のある方に、是非ともご参加いただきたく、ご案内申し上げます。なお、定員は6～8名とさせていただきます。

- 参加資格：1. 年齢が50歳未満であること
2. 獣医師の資格を有すること（臨床経験を有することが望ましい）
3. 野生動物の救護活動に熱意を持っていること

●講習および実習の概要

＜連続講習会＞

開催期日：平成21年9月～平成22年1月 ＊月1回開催（日曜日）・計5回

開催時間：13：00～17：30

会 場：環境省水鳥救護研修センター（東京都日野市）

＊第1回：9月20日（日）（予定）

①「油汚染鳥救護に関わる WRV の活動」 ②「油汚染の被害に遭う可能性の高い海鳥」

③「油汚染の海鳥への影響のメカニズム」

講師：WRV 会長、WRV 研究部長、ほか

＊第2回：10月18日（日）（予定）

①、②「油汚染事故対応に関する基礎知識」(1)、(2)

講師：(独) 海上災害防止センター

＊第3回：11月中旬（予定）

①「油汚染鳥救護に関わる法体系と行政」 ②「油汚染事故に対する補償制度」

講師：環境省、国土交通省

＊第4回：12月上旬（予定）

①、②「関係団体による活動」（連携）(1)、(2)

講師：日本環境災害情報センター、(財) 日本野鳥の会

＊第5回：1月中旬（予定）

①「油汚染鳥の収容・洗浄法」 ② 実習「油汚染鳥の洗浄」

講師：WRV 理事

＜現場実習 等＞

①野生動物ボランティアセンター（神奈川県川崎市）

実習期間：平成21年8月～平成22年3月：各人16日間

実習内容：水鳥救護(他の野生鳥獣も含む)の技術を幅広く習得するための実習

②猛禽類医学研究所（北海道釧路市）

実習期間：平成21年8月～平成22年3月：各人5日間

実習内容：野生鳥獣を保護するための技術や野外での対応法等を学ぶための実習

本養成事業に関心のある方は、事務局まで電話、FAX、あるいはメールにてお問い合わせいただきたく、よろしくお願い致します。なお、参加者の募集については、WRV のホームページも、是非ご欄ください。

寄付ご協力者（敬省略）平成21年3月1日から平成21年5月26日）

18, 116

事務局日誌 2009.3.26～2009.6.25

本部

- 4月3日：ミネラル調査のためのカラス採血：こどもの国（多摩動物公園 吉原氏と）
須田・梶山
- 6日：日本財団 春の交流会参加（助成金関連） ANA ホテル 須田
- 6日：山加朱美都議会議員後援会（自民党政経懇談会）参加 赤坂プリンスホテル
新妻
- 6日：「もしも野鳥のヒナを見つけたら」（鳥類保護連盟作成）会員へ配布 須田
- 20日：第4回 WRV 理事会
- 5月8日：平成20年度油等汚染水鳥救護研修報告書提出 須田・吉見
- 10日：救護施設連携について、森田正治氏、村井英紀氏、村井みとい氏と会談 須田
- 18日：第5回 WRV 理事会
- 22日：山加朱美都議会議員後援会 参加 練馬文化センター 新妻
- 28日：環境省打ち合わせ 新妻・須田・梶山
- 6月10日：田中良都議会議員後援会 出席 京王プラザホテル 新妻・須田
- 13日、14日：JAHA 年次大会 後援、ブース出展 須田
- 17日：第6回 WRV 理事会
- 26日：ニュースレターNo.69 発行 皆川

東京都支部

- 3月31日：平成20年度傷病野生鳥獣の保護治療委託契約報告書提出 野村・佐藤
- 5月23日、24日：東京バードフェスティバル2009 東京港野鳥公園 ブース出展
野村・新妻・皆川・箕輪
- 6月7日：ふっさ環境フェスティバル ブース出展 野村・箕輪

神奈川支部

- 3月24日～4月19日：「ゴミに悩まされる野生動物」パネル展示（共催） 野毛山動物園
皆川
- 4月10日：横浜市獣医師会依頼のヒナ誤認保護防止ポスター 朝日新聞社取材 皆川
- 18日：野毛山動物園でのリハビリテーター活動 TV 神奈川取材 皆川
- 29日：リハビリテーター向け油汚染洗浄実習（ボランティアセンター） 皆川
- 5月13日、14日、16日：リハビリテーター向けヒナ餌やり講習会
（ボランティアセンター） 皆川
- 29日：ふれあい動物園イベント参加（川崎市高津区橘公園） 皆川
- 6月2日～8月31日：「ゴミに悩まされる野生動物」パネル展示（共催）
会場 理科ハウス（逗子市） 皆川

野生動物救護獣医師協会 (ホームページ) <http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 69 2009.6.26 発行

発行：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局：〒190-0013 東京都立川市富士見町 1-23-16 富士パークビル 302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人：新妻 勲夫

編集文責：皆川 康雄
